

主な内容

- 2 面 産業ときめきフェア in EDOGAWA 出展企業大募集
- 7 面 食中毒に注意しましょう!
- 8 面 江戸川区緊急災害対策をまとめました 区民施設の利用制限のお願いと10月以降の利用について

発行/江戸川区 編集/広報課 〒132-8501 江戸川区中央1-4-1 ☎(3652)1151(代表) FAX(3652)1109 ホームページ <http://www.city.edogawa.tokyo.jp/>

# 放射線の状況をお知らせします

## 区内の空間放射線量の測定結果

6月18日 東京都実施 (単位はいずれもマイクロシーベルト/時間)

測定場所	測定値	
	地上1m	地上5cm
小松川小学校 (平井4~1~23)	0.08	0.08
小岩小学校 (東小岩3~20~10)	0.13 (①)	0.15 (②)
鹿骨スポーツ広場 (篠崎町8~3)	0.13 (①)	0.13
滝野公園 (中葛西3~22~1)	0.10	0.12

◎1000マイクロシーベルト = 1ミリシーベルト

●測定器 シンチレーション式サーベイメータ アロカメディカル TCS166

●測定方法 地表面から1mと5cmをそれぞれ、30秒間×5回測定し、その平均値を算出

### ～自然放射線と人工放射線～

私たちの身の回りには「自然放射線」があります。これは、呼吸や食物から受ける内部線量と、宇宙線や大地から受ける外部線量に分けられます。これらの放射線は、今回の原発事故による「人工放射線」とは関係なく、普段から受けています。

◎日本の自然放射線量⇒年間平均約1.5ミリシーベルト

※世界平均は、年間約2.4ミリシーベルトです。

## 年間に受ける空間放射線量(推定)は?

算出方法⇒1日8時間を屋外、16時間を屋内にいると仮定  
※東京都健康安全研究センターの算出方法に基づいています。

- ▶地上1mで測定した最高値(上表①)⇒0.68ミリシーベルト/年
- ▶地上5cmで測定した最高値(上表②)⇒0.79ミリシーベルト/年

この数値は、国際放射線防護委員会(ICRP)の勧告「一般の方の被ばくを年間1ミリシーベルト以下に抑える(自然放射線および医療により受ける放射線を除く)」を満たしています。

今回の年間空間放射線量(推定)は、自然放射線のうち、外部線量を含めたもので、これを差し引けば、より健康への影響が少ない数値となります。

◎今回の測定結果に関する問い合わせは、保健予防課☎(5661)2476へ。

## 安心して生活できるレベルです 東京大学放射線科准教授・中川 恵一 さん

首都圏の空気中の放射線量は、ほぼ平時に近い数値に戻っており、新たに放出されている放射性物質はほとんどありません。国民のみなさんは、放射線を漠然と恐れていますが、問題となるのは発がんリスクの上昇だけです。



国際放射線防護委員会は、「積算100ミリシーベルトの被ばくで、がんの発生率が0.5%上昇する」と推計しています。それ以下の低線量での被ばくについては、がんが増えるかどうか科学的に実証されていないため、たとえ、がんが発症しても、原因が放射線によるものなのか区別がつかません。

これは、喫煙や飲酒、食べ物などの生活習慣の方が、はるかにがんの発生に関係するため、わずかな被ばくでは、ほかの要因の中に埋没してしまうためと考えられています。100ミリシーベルト以下の被ばくで「ここまでなら安全」という基準値を決めることは大変難しいとされています。しかし、10ミリシーベルト以下では、発がんが増えるとは考えられておらず、現在の江戸川区の放射線量は、安心して暮らせるレベルです。

## 食べ物・水への影響は?

- ◆食べ物に含まれる放射性物質は、安全のための規制値が定められており、規制値を上回った食べ物が、店頭に並んだり学校の給食に出たりすることはありません。
- ◆都内の水道水は、乳児でも安心して飲めるよう、安全に配慮して管理されています。
- ◆小・中学校などのプールは、溜まっていた水を6月中に排水し、清掃を行い、水の入れ替えをした上で使用しています。

☎ 生活衛生課☎(3658)3177

## 区独自に空間放射線量を測定しています

区では、放射線量の測定は、統一的な機器・方法により、国や都が実施すべきと考え、特別区長会を通じ、要請を行ってきました。その結果、都は区内4か所で測定を実施しました。

更に、区民のみなさんの不安を解消するため、現在、区独自に放射線量を測定しています。測定場所は、保育園、幼稚園、小・中学校、公園など19か所です。測定結果は、区ホームページでお知らせします。☎ 環境推進課☎(5662)1995

夏を待つていたかのようになり、一気に気温が上がりました。暑い夏がやってきました。昨日、日本全国を猛暑が襲い、熱中症が多くなると、記憶に新しいところですが、気象庁の発表によると、関東地方の今年の暑さは平年並みかやや高めとのこと。しかし、この夏がどうなるかは別として、昨年と大きく違うのは原発事故による電力危機があることです。もし電力消費量が昨年同様という間に合わせず、計画力供給が間に合わず、計画停電があるいは予期せぬ大規模停電が発生することになりかねません。これは、全体的に社会的機能が停止することを意味します。こうした事態を何としても回避しようとして、国は昨夏比15%減の節電を呼び掛けました。本区では、その目標値の達成にとどまらず、区施設で20%、25%の節電を目指した取り組みを進めています。今、街なかの家電販売店では、エアコンや冷蔵庫、テレビなど、省エネ型の製品が在庫不足になるほど売れていくそうです。買い替える費用はかかりますが、皆さんの高い節電意識がうかがえます。もちろん、長い目で見れば電気代の節約にもつながります。

ご家庭や街の灯りは、夏にしたいものですが、心は分



江戸川区長 多田正見